

2016年10月12日

不連続か、断絶か、過去否定か

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 渡辺博史

今号からこの欄で書かせて頂くことになりましたが、最近の諸情勢の動きの速さを何とかお伝えできればと思っています。

この9月に以前からの縁もあって、北米と欧州それぞれに10日間ほど行ってきました。そのどちらでも話の中によく出てきた単語は「disruptive」というものでした。しかも、それが様々な事象の中での「新段階」、「新発展」と共に語られていたのが印象的でした。

例えば、産業革命「4.0」という言葉がありますが、これまでの三次にわたる産業革命の後継的な造語であることは、その表現からも明らかですが、その内実は全く様相を異にしています。第一次のときには、初期において「ラッダイト運動」を起こさせたように、人から仕事を奪うものということで、排斥、抵抗運動が起こりました。しかし、その鎮静後、さらに続く第二次、第三次では、効率化、集約化、環境保全が著しく進み、人間の可能性拡大に寄与し、そして共生に向けて大きく貢献してきました。しかし、今回の第四次では改めて人から仕事を奪うという要素が極めて強くなっています。人も要らない、電気も要らない、作業空間も要らない、そして資金も要らないという、この新しい流れは、名前こそ「四番目」ですが、場合によっては過去の叡智の集積の全否定になりうるという警告を語る者が多かった感じがします。

これまでも、「新しい」段階に入った時に、それがこれまで進んできたラインの延長線上にある「線形」の変化なのか、「非線形」なのかの正しい認識が遅れることによって、それへの対応において多くの摩擦、失敗を生みました。また、仮に非線形であると認識したとしても、どの程度のもんかが理解できないと、結局対応を誤ると警告でした。

また、情報の世界でも、「IT化」、「ビッグ・データ」、「AI」、「IoT」と次々に新しい言葉が作られて行く過程では、新しい概念は単に前のものを進化させる、あるいは包摂して大きくかつ高次のものに移行させる、というよりは全く新しい切り口、角度からの提案であって、「どれかとどれかを結びつける」という発想で考えると間違えるのではないか、ということが真剣に語られていました。

私のような素人でも、「不連続」だ、あるいは「前後に断絶」があるなどということくらいは、次の段階に進む以上当然にあるものだという程度の理解はしてきたつもりでしたが、「disruptive」というような過去否定あるいは旧弊破壊というニュアンスの強い言葉の利用には、正直驚いています。

我々にご縁のある世界でも「フィンテック」という言葉が飛び交っていますが、これが金融行為の効率化、高度化、業容拡大、新規需要の掘り起こしにつながるものなのか、それとも多くの金融業務を銀行をはじめとする既存の金融機関から奪うことにつながるのかは、正確に見極める必要があります。過去にビル・ゲイツが「Banking is necessary. Banks are not.」と言ったそうですが、この言葉を改めて反芻する時期かも知れません。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2016 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>